

『天皇皇族実録』の真の意味での完成を期し、
『四親王家実録』をはじめて公刊。

宮内庁書陵部所蔵

四親王家実録

第一期 伏見宮実録 全19巻

監修

吉岡眞之

藤井讓治

岩壁義光

刊行のことば

吉岡眞之 藤井讓治 岩壁義光

YOSHIOKA Masayuki FUJII Joji

IWAKABE Yoshimitsu

さきに刊行された『天皇皇族美録』に引き続いて、その続編ともいべき『四親王家実録』が復刻刊行されることとなつた。

四親王家とは、中世後期に創設された伏見宮家を始め、近世初～中期かけて設立された八条宮（後に常磐井宮・京極宮・桂宮と改称）、高松宮（後に有栖川宮と改称）、閑院宮を総称する名称である。四親王家は、当初必ずしも皇統維持の観点で設立されていたわけではないが、遅くとも近世中期ころから、皇位継承の危機に備えるためとする認識が次第に広まつていつた。各宮家の代々当主は天皇の猶子あるいは養子となって親王宣下を受けて親王となり、皇位継承に備えつつ近世末期に及んだ。

四親王家と天皇家の関係はこのように密接であり、『四親王家実録』もまた『天皇皇族実録』の一環として編修されるべき性質のものであった。しかし四親王家代々の親王およびその妃・王子等の事績を、それぞれの祖に当たる天皇の実録に組み込むことになれば、実録の様態・内容がきわめて複雑なものになることは明らかであった。このため四親王家の実録については『天皇皇族実録』とは別に『四親王家実録』として編修することとなつたのである。

『四親王家実録』の体裁は『天皇皇族実録』にならない、親王家ごとに編年綱目体で編修された。すなわち年月日ごとにまず綱文を立て、その後に綱文の根拠となる史料を配列する。

引用史料は各宮家当主の日記、宮家の家職に関する日誌を始め、公家日記、関連寺社の記録類、また京都御所東山御文庫・宮内庁書陵

部・国立公文書館内閣文庫・近衛家陽明文庫などに所蔵されている信頼性の高い史料を広く収集し掲載している。引用史料はこれまで

『四親王家実録』がとりわけ近世を中心とする公家社会史研究に資する点は少なくない。

『四親王家実録』は宮内省図書寮において一九四四年（昭和十九）に編修が開始されたが、一九四五年的第二次世界大戦敗戦とともに、編修事業は中断を余儀なくされた。その後、一九六五年（昭和四〇）に宮内庁書陵部編修課は『四親王家実録』の編修計画を策定し再び事業の開始を企図したところ、翌年明治百年記念準備会議が『明治天皇紀』の公刊を宮内庁に求めたことから、編修課がこれに従事することになった。このため同課では二つの大きな事業を並行して進めることとなり、当初の編修計画は大幅に遅延したが、一九八四年（昭和五九）年三月にいたり『四親王家実録』は完成を見たのである。

『四親王家実録』には四〇七名の皇族の事績が二九四冊にまとめて収載され、総目次・系図一冊が添えられた。また別に実録本編より綱文を抄出した抄出本五部（一部三三冊）が作成された。宮家ごとの内訳は以下の通りである。

総目次・系図 一冊
伏見宮家 一二九冊
桂宮家 三五冊
有栖川宮家 九〇冊
閑院宮家 四八名

四親王家と親王宣下について

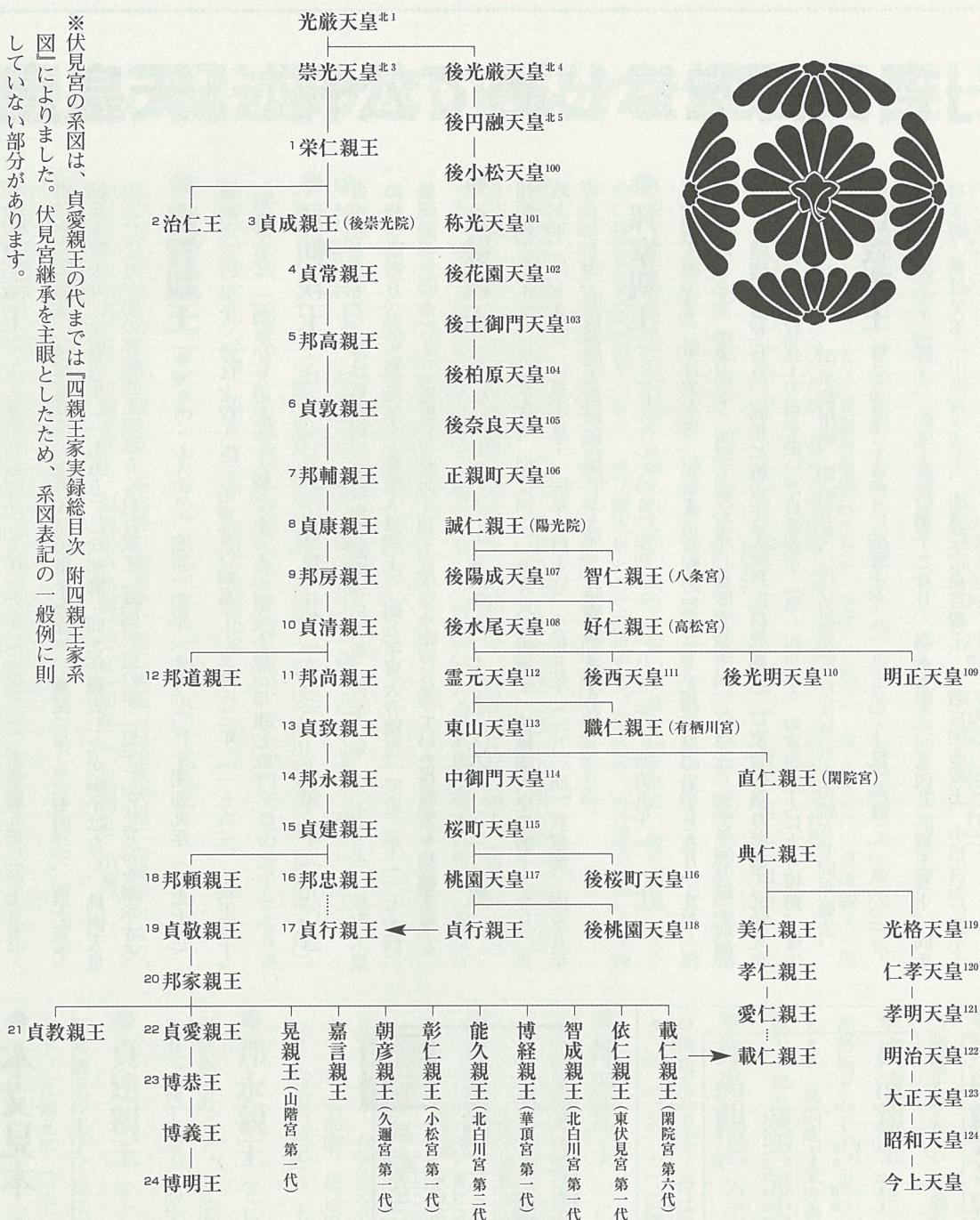
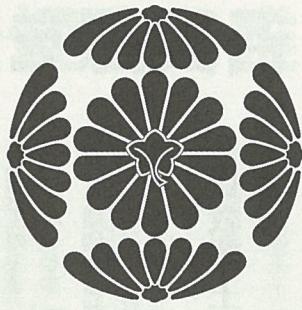
元来、親王とは、大宝元年（七〇一）制

定の大宝継嗣令により定められた、天皇の兄弟・皇子を表す呼称（姉妹・皇女は内親王）である。しかし平安時代以降は皇族の臣籍降下が盛んに行われる一方、天皇の兄弟姉妹、皇子女でも親王宣下を受けなければ親王・内親王を称することができなくなり、親王宣下の対象は次第に拡大していった。かくして鎌倉時代後期には五辻宮・常磐井宮・木寺宮など、当主が親王宣下を蒙つて宮家の称号を代々継承する世襲親王家が成立した。しかしこれらの宮家は室町時代中・後期には姿を消した。

四親王家は世襲親王家の延長上に位置するものであった。室町時代にはまず崇光天皇（北朝第三代）の第一皇子栄仁親王を祖とする伏見宮家が成立し、ついで室町時代末期から江戸時代中期にかけて正親町天皇の皇孫智仁親王に始まる八条宮家（後に常磐井宮・京極宮・桂宮と改称）、後陽成天皇の皇子好仁親王を祖とする高松宮（後に有栖川宮と改称）、東山天皇の皇子直仁親王を初代とする閑院宮が成立した。これらの親王家は後に四親王家と総称された。各宮家の歴代当主はおおむね天皇・上皇の養子もしくは猶子として親王宣下を受け、それぞれの宮家を継承しつつ幕末に及んだ。

伏見宮

伏見宮は世襲四親王家のうち最も古く、崇光天皇の第一皇子栄仁親王を祖とする宮家である。その名称は、伏見殿に居住したことに由来する。栄仁親王は持明院統の正嫡として皇位を継承する立場にあつたが、足利義満に擁立された光嚴天皇の長子、弥仁が後光嚴天皇として即位したため、崇光天皇の家系は伏見宮として存続し、この後、治仁王、貞成親王が継承した。称光天皇の代に後継者が途絶えたため、貞成親王の皇子彦仁王が後花園天皇として即位したことで、伏見宮の地位も安定したものとなつた。伏見宮家は治仁王を除き、第二十二代貞愛親王まで代々親王宣下を受け、五五〇年存続したが、一九四七年、博明王は、GHQ指令により皇籍を離脱し、宮家としての歴史を終えた。



本書の内容と特徴

伏見宮・桂宮・有栖川宮・閑院宮の四宮家は、それぞれ血統を天皇に受け、代々親王宣下を受けて宮家の世襲してきた。歴史的には、宮家より皇統を継いだ場合や逆に皇子にして宮家を継いだ場合もあり、四親王家と天皇家の関係はきわめて密接であった。しかしながら、「天皇族実録」に各宮家に属する皇族の事蹟を併載することは、困難かつ相応しくないと言うことで「天皇族実録」編修の際に別に「四親王家実録」の編修が予定され、四親王家に属する皇族の実録は省かれた。

「四親王家実録」の成立

「天皇皇族実録」の印刷が完了した一ヶ月後の昭和一九年八月から「四親王家実録」の編修が開始されたのは、当初の意図から当然の成り行きであった。しかし、まもなく敗戦を迎えた事業は中止となつた。戦後「貞明皇后実録」、「昭憲皇太后実録」の編修完了を経て昭和四十一年四月に事業が再開されたが、「明治天皇紀」公刊事業によつたもや編修が遅れ、ようやく昭和五九年三月編修事業が終了した。幕末維新の際に伏見宮家から独立した宮家の皇族については、「明治以後皇族実録」として後に編修された。

『天皇皇族実録』を補完

「天皇皇族実録」で省かれていた、各宮家に属する皇族の事蹟である「四親王家実録」の公刊により、眞の意味での「天皇皇族実録」の完成となる。

近世公家社会研究に有益

近世に書かれた未公刊の日記を大量に含んでおり、近世公家社会研究にも大変有意義である。

解說

※伏見宮の系図は、貞慶親王の代までは「四親王家実録総目次 附四親王家系図」によりました。伏見宮繼承を主眼としたため、系図表記の一般例に則していらない部分があります。

四親王家実録 第Ⅰ期 伏見宮実録 全19巻

〔監修〕吉岡眞之／藤井讓治／岩壁義光

●予定価：本体475,000円+税 ISBN978-4-8433-4791-1 C3321 B5判上製

第1回配本・全6巻 予定価：本体150,000円+税 ISBN978-4-8433-4633-4 C3321

2015年6月刊行予定

◆第1巻◆栄仁親王実録／治仁親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4637-2

◆第2巻～第4巻◆貞成親王実録 全3巻(分売不可)

予定価：本体75,000円+税 ISBN978-4-8433-4638-9

◆第5巻◆貞常親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4639-6

◆第6巻◆邦高親王実録／貞敦親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4640-2

第2回配本・全6巻 予定価：本体150,000円+税 ISBN978-4-8433-4634-1 C3321

2015年10月刊行予定

◆第7巻◆邦輔親王実録／貞康親王実録／

邦房親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4641-9

◆第8巻◆貞清親王実録／邦尚親王実録／

邦道親王実録／貞致親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4642-6

◆第9巻◆邦永親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4643-3

◆第10巻・第11巻◆貞建親王実録 全2巻(分売不可)

予定価：本体50,000円+税 ISBN978-4-8433-4644-0

◆第12巻◆邦忠親王実録／貞行親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4645-7

第3回配本・全7巻 予定価：本体175,000円+税 ISBN978-4-8433-4635-8 C3321

2016年2月刊行予定

◆第13巻◆邦頼親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4646-4

◆第14巻・第15巻◆貞敬親王実録 全2巻(分売不可)

予定価：本体50,000円+税 ISBN978-4-8433-4647-1

◆第16巻～第18巻◆邦家親王実録 全3巻(分売不可)

予定価：本体75,000円+税 ISBN978-4-8433-4648-8

◆第19巻◆貞教親王実録

定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-4649-5

◆第Ⅱ期◆桂宮実録

全1回配本.....2016年7月刊行予定

◆第Ⅲ期◆有栖川宮実録

全2回配本.....第1回：2016年12月／第2回：2017年3月刊行予定

◆第Ⅳ期◆閑院宮実録

全1回配本.....2017年7月刊行予定

天皇皇族実録

全135巻

藤井讓治／吉岡眞之 監修

A5判上製

孝明天皇に至る歴代天皇並びに北朝五天皇と、皇后以下後宮、皇親、皇親妃（四親王家を除く）に関する事蹟を載録した戦前期最高水準の実録。

第Ⅰ期 近世篇 全37巻●予定価：本体684,500円 ISBN978-4-8433-2021-1

第Ⅱ期 古代篇 全42巻●予定価：777,000円 ISBN978-4-8433-1952-9

第Ⅲ期 古代篇 全7巻●予定価：129,500円 ISBN978-4-8433-2680-0

第Ⅳ期 中世篇 全49巻●予定価：906,500円 ISBN978-4-8433-1991-8

近世有栖川宮歴代行実集成

全7巻

岩壁義光 監修・解題

A5判上製

有栖川宮の近世における全体像を探ることが出来る唯一の史料。

●予定価：本体155,000円+税 ISBN978-4-8433-4099-8 C3321

皇族軍人伝記集成

全16巻+別巻1

佐藤元英 監修・解説

A5判上製

日本の軍隊の姿を皇族軍人の伝記から見る画期的シリーズ。

●予定価：本体402,000円+税 ISBN978-4-8433-3550-5 C3323



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493
<http://www.yumani.co.jp>

●特におすすめしたい方● 日本中世史・近世史・近代史、日本文化史・政治史などの研究者、大学図書館、公共図書館、関係研究機関など。

ゆまに書房	Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493	年 月 日
四親王家実録 第Ⅰ期	伏見宮実録 全19巻	
予定価：本体475,000円+税 ISBN978-4-8433-4791-1 C3321		
お名前	セト	
ご住所	取扱店	
TEL	()	

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

15.06/01.7000.FR